

# 令和6年度 第2回 群馬県総合教育会議 議事録

**開催日**：令和6年6月18日（火） 18：30～19：30

**会場**：群馬県総合教育センター404会議室（伊勢崎市今泉町1-233-2）

**出席者**：【会議構成員】

山本知事、平田教育長、沼田教育長職務代理者、代田委員、河添委員、  
日置委員、小島委員

【事務局（教育委員会）】

高橋教育次長、栗本教育次長、  
小林総務課長、酒井義務教育課長、古市総合教育センター所長、  
飯<sup>いいじま</sup>嶋みらい共創中学校長

【事務局（知事部局）】

古仙知事戦略部長、三輪戦略企画課長

（会議開始前に、会議構成員が、①群馬県立みらい共創中学校の授業、②群馬県総合教育センターのメタバースを活用したオンライン不登校支援「つなサポ」の取組を視察）

## 1 開会

## 2 あいさつ

（山本知事）

- ・本日は、飯嶋校長、古市所長をはじめ、教育委員会の皆様に、素晴らしい視察を企画いただき、本当にありがたい。平田教育長をはじめ、皆さんに改めて御礼を申し上げる。教育委員の皆様にも、お忙しい中、集まりいただき、感謝申し上げます。
- ・県の最重要政策である教育イノベーションを推進するためには、知事と県の教育委員会が、教育現場の生の声や実態をしっかりと把握することが不可欠と考えており、今年4月に開講した群馬県立みらい共創中学校と6月に開設したつなサポの視察も含めた形で、開催させていただいた。
- ・群馬県は、年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が誰一人取り残されることなく自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる、自立分散型の社会を目指している。実現に向けては、多文化共創・共生の取組を進めていくことが不可欠で、令和3年4月に「多文化共生・共創」を規定した全国初の条例、群馬県多文化共生共創推進条例を施行した。
- ・多文化共生を推進するにあたっては、学校教育の果たす役割は大変大きいと考えている。本日の会議は、現状を踏まえつつ、さらに多文化共生・共創を深化させるために、「多文化共生・共創の推進に向けた学校教育の充実」をテーマとさせていただく。
- ・多文化共生・共創の最前線ともいえるこの群馬県立みらい共創中学校やつなサポの取組を踏まえつつ、忌憚のない意見交換をお願いします。
- ・先日も、開校式にみらい共創中学校を訪問させていただいたが、実際に授業の様子を見たら、かなりスペースも広くて、とても良い印象を受けた。みらい共創中学校のお手洗

いで何人か外国籍県民の皆さんにもお会いして、ご挨拶をさせていただいた。みらい共創中学校の現場・空間に群馬県の未来があるような印象を受けた。先生方が、本当に熱心に全力で授業される、情熱を持って取り組まれている姿にも大変感銘を受けた。

- つなサポも、コミュニケーションが苦手な子ども達が集まって、メタバースを使って、コミュニケーションできるという取組は、大変すばらしい試みだと思い、さらに広げていきたい。
- 視察をする中で、県内の様々な場所で、日本国籍の県民の方たちが、外国籍の県民の皆さんに、日本語を教えるなどの取組が、ボランティア的に広がっていくとすごく暮らしやすい多文化共生の県になるのではないかと感じたことも申し上げたい。

(平田教育長)

- 知事には、大変ご多用のところ、教育委員会との意見交換会の場を設けていただき、心より御礼申し上げます。また、みらい共創中学校、つなサポと今年から本格的に開始した2つの取組を視察いただき、温かい言葉を頂戴して、心から感謝申し上げます。外国籍の方々や学校に通いにくい子ども達は、全体から見れば、多くはない。しかし、その小さい、少ないところに実は本質が宿っていると考えている。
- 本日は、多文化共生・共創の推進に向けた教育の充実というテーマで、2つの取組を視察いただき、現状の関係施策等についても、これから報告、説明させていただく。その上で、知事と教育委員の皆様方が、意見交換させていただくのは本当にありがたい機会と考えている。本日はよろしく願います。

### 3 議事

#### 「多文化共生・共創の推進に向けた学校教育の充実について」

○以下の資料を参考配布。

資料1 「群馬県立みらい共創中学校の取組説明」

資料2 「外国人児童生徒等教育充実総合対策について」

○群馬県立みらい共創中学校 飯塚校長から、資料1に基づき、群馬県立みらい共創中学校の取組を説明。また群馬県教育委員会 酒井義務教育課長から、資料2に基づき、群馬県の実施する外国人児童生徒等教育充実総合対策について説明。

○意見交換

「多文化共生・共創の推進に向けた学校教育の充実について」をテーマに、会議開始前の視察内容等も踏まえ、意見交換。

(小島委員)

- みらい共創中学校の様子を視察して、ここで自分も勉強させてもらいたいと感じたのが率直な第一印象。つなサポは、ゲームになじんでいる不登校の子が使ったりすると、非常に楽しく使えるだろうという印象がした。
- 多文化共生・共創について、本日のみらい共創中学校の様子を視察し、日本人ばかりが居る教室が、国際的には、普通ではないのかもしれないと感じた。特に、多文化共創を実現するためには、外国籍の子どもをどう教えるかというよりは、日本国籍の子どもを、外国籍の方に対して、どう対応できるようにするかということをお教えることの方が必要ではないかと感じている。

- ・現状の教育機関や行政機関よりも、民間の方が、多文化共生・共創の取組が組織面・人材面ともに、進んでいる印象を受けている。
- ・例えば、私も加入している日仏協会があり、みらい共創中学校でフランス語通訳の方を探して同協会に接触されたと同っている。通訳として声がかかった日仏協会の女性は、フランスの三ツ星レストランでパティシエをやっていた方と同っており、フランス文化の多様な経験をお持ちと同っている。
- ・このような人材や組織は、民間の中に多くあるが、教育の現場等とどうやって結びつけるのかが一番の課題になると感じている。人材バンクではないが、群馬県のどこにどのような組織があって、どんな人物が在籍しているか、といったデータバンクさえあれば、例えば子ども達がインドのことを知りたいと考えたときに、紹介し、つなげることができるのではないかと考えている。

(日置委員)

- ・みらい共創中学校は、生徒の背景や年齢も違い、何を学びの目的とするかも違うという中で、いかに個別最適で協働的な学びをやるかというところが大事と考えている。この取組が成功すれば、群馬県内すべての学校にも通じていくと考えており、それは、障害を抱えた子ども達も含めたインクルーシブ教育にもつながると考えている。いかに個別最適な学びを実現していくかというのが、目指すことなので、みらい共創中学校をモデルとして、培った知見をいかに群馬県の中に浸透させていくのかが非常に大事と考えながら、視察させていただいた。特に、多様な背景を持つ皆さんが、1つの教室に集まり、熱心・真剣に授業に取り組んでいる様子が非常に印象的だった。
- ・つなサポに関連して、不登校の生徒は、中学校だと大体6%ぐらいと同っている。群馬県の中では、不登校の児童生徒数が外国人児童生徒数を上まわっていることから、誰一人取り残さない教育を考えると、不登校の問題も喫緊の課題と考えている。
- ・不登校の子ども達が学校に復帰できるように、学校の先生、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどが、様々な働きかけを行っているが、大体3分の1程度が不登校から、復帰しているという結果がある。そんな中、不登校が10年ぐらいずっと連続して増加していくということで、非常に難しい問題だが、どうやって解決していくかということを考えていかなければならない。
- ・不登校の要因は、例えば、学校のいじめの問題やヤングケアラーの問題、学校の問題、家庭の問題と様々だが、調査結果を見ると、結局、本人に関わるものが一番多いということである。成績不振や部活動の中でのちょっとしたつまずきなどから、もう何をやっても駄目だとやる気がなくなってしまうといった本人に関わるものが一番多いとのことである。
- ・そこにどうやってメスを入れるかということだが、不登校全体の6割ぐらいがひきこもりと言われている。学校にどう引き戻すということだけをゴールに考えるのではなく、様々な学びの形態を提供していくということが重要ではないかと考えている。その1つとして、メタバース空間は、非常に大きな可能性を示しているのではないかと考えている。
- ・文科省のメタバース学校実証実験でも、参加者の7割が今まで支援センターなどの支援機関とつながりがない生徒と聞いている。同省の実証実験では、引きこもりの子どもたちが参加できていて、2年間で参加者の3分の1が40%以上の出席率というデータが出ている。今まで本当に手が入ってなかったところに、メタバースの学校が寄与してきている。本日、総合教育センターの古市所長から、つなサポは、非常に引き合いが多く、これから対応を増強していかなければならないと同った。

- ・メタバース学校の場合、空間と、自主教材、支援員だけを集めただけではなかなか難しく、体験できるコンテンツの勝負というところになると考えている。つなサポにもダンスやスポーツなどの体験できるコンテンツがあるが、今回お話を伺ったところだと、かなりカスタマイズできるプログラムになっているようなので、これからもどういうコンテンツを作って発展させていくかということ、子ども達や指導している先生方と一緒に考えていくことが必要と感じた。

(河添委員)

- ・本日視察させていただいたみらい共創中学校とつなサポ、この2つの学び場は、これからの未来を築いていく群馬の子ども達や若者、学習者、地域社会、そしていくつになっても、いかなる国の方であっても、学びたい、つながりたいと思う方にとって、学びやつながりが始められる機会や、悩みが語れるつながりの場として、自ら動き出すきっかけとなる大変素晴らしい政策と感じている。改めて、一県民としても、心より感謝申し上げます。
- ・教育保育に携わる者として、幼児期から児童期は、非認知能力を育む黄金期であり、心の土台づくりが使命と感じている。特に学校教育では、様々な違いを受入れる心豊かな成長に向け、自らの長所を安心して発揮し合える環境を整えていくことが、大切だと感じている。
- ・人権教育や人権感覚、自他を大切にする心、自己肯定感の育成、他者との関わり、集団づくりと、子ども達が自ら特性に応じて動き出し、継続的に活動に取り組む場、「学級」を居心地よく誰もが認められ、力が発揮できる環境としていく日々の営みがとても大切と感じている。なぜなら、「学級」という場は、本当に多様性を学ぶ宝庫であると考えているためである。
- ・学級づくりは、教師側からは、学級経営ともいうものだが、誤解していただきたいのは、学級王国や昔のドラマの先生とは異なり、一人一人や集団の特性や状況に応じて、ファシリテーター役、サポーター役、伴奏者役を果たしていくのが、担任教師の役割となってきている。
- ・常時活動や授業での教師の投げかけであるとか、仕掛けであるとか、長所の伝え合い、そして一人一人と学級、集団の成長を実感できるような振り返りや、見える化をサポートしながら、単発ではなく、継続した1年間のかかわりの中で、ともに悩んだり、喜んだり、そうした日々の尊い営みを通して、他者理解、自己有用感や肯定感につなげていく。
- ・子ども側からすれば、自らの手で作る学級集団づくりなので、楽しい。中でも、自他を認める環境が整いつつあれば、担任はサポート役に徹して、子ども達自身で話し合ったり、実践したりしていく営みが有効であると考えている。今日視察したメタバース上の学校の中でも、そんなかかわりができてくるのではと期待している。
- ・学校で言うと、特別活動の学級活動であるとか、係活動、学級会等に、みんなが役割を持って継続的に取り組んだり、リーダーやフォロワーはどちらも経験したりしながら、自らがよりよい学級集団を築いていく、そうした体験の中で、自然な形で多様性に気づき、互いの特性を、認めあい、その価値を実感していくようになっていくのではないかと考えている。
- ・学校教育では、今お話したように集団の環境を整えること、学級づくりにおける多文化共生・共創の推進に向けて、より力を入れていけるとよいと考えている。

(代田委員)

- ・みらい共創中学校を視察した際に、生徒が笑顔で挨拶してくれたことが私には印象深く、本当に環境が整っていると感じた。
- ・メタバース上のつなサポだが、子どもは、本当に興味を持つものだと思う。自分はここにいていいという自己肯定感を持てる場所であって、これが進んでいけば、みんなで共同作業ができるのではないかなと感じた。共同作業が可能になってくれば、自分の考えを発表できる場として、十分に子ども達が活かせる場所でもあると思うので、非常によい取組と感じた。
- ・多文化共生・共創の推進に向けた学校教育の充実について、学校の現場である教室では、既に、外国籍の子ども達がいるのは当たり前で、日本人だけではないという感覚もあるし、外国の文化も知っているのではないだろうか。外国籍の友達がいると、どこかの国へ帰国しなければならない時期があるとかいった事情も、子どもたちはすごくわかっている。もしかしたらこういったコミュニケーションは、そこから大人も学べるのではないかと考えている。
- ・外国籍の方と関わる時に、私は、すごく優しさをお持ちだと感じる。障害を抱えた子どもに対して、外国籍の方が必ず声をかけてくれるし、子どもに興味を持ってくれて、車椅子もかっこいいと言ってくれたり、ジェスチャーで教えてくれたりする。こういった外国籍の方が、母国の文化としてお持ちの優しさもみんなで共有しあえるといいと思った。

(沼田委員)

- ・私からは、3点申し上げたい。
- ・まず、みらい共創中学校について、入学式の際に、生徒代表挨拶をしていた生徒の方が、皆と友達になりたいと話をされていた。私は、多文化共生・共創というのは、この友達になりたいという言葉にすべてが込められてるのではないかと考えている。本日、夜間中学校を視察させていただいた際に、代表挨拶をしていた生徒の方が、他の生徒達に関わりながら、先生の指示を受けとめつつ、困っている隣の友達に、教えていた。その様子を見て、この2ヶ月間、夜間中学校で取り組まれていた、1つの成果を拝見させていただいた。みらい共創中学校、ともに創る学校という名前通り、生徒の皆さんが、生徒同士でともに作っているその姿に感銘を受けた。
- ・メタバース上の学校だが、山本知事がメタバースを体験していて私も体験したいと思うぐらい、楽しい環境がオンライン上にあって、学校に行きづらい子達にとっては、メタバース上の学校がハードルが低く、社会参画の場になっているということを学ばせていただいた。今回視察した教室の後ろに、先生達が模造紙を張って、どんなメタバースの空間がいいのか、どういう声かけがよいのかということを模造紙に、おそらく付箋を貼って、いろいろ試行錯誤されていた様子があった。先生達にとっては試行錯誤のメタバース上の学校づくりだったと思うが、群馬の子ども達にとって安心安全な環境になると思う。実現に向けたご尽力に感謝したい。
- ・多文化共生・共創の推進に向けた学校教育の充実については、例えば、審議会等の委員に、外国ルーツの方々や夜間中学校に通われたような方々が参画していくということが重要ではないかと考えた。日本国籍である私達が、例えば教育の現場を多文化共生に向けて充実させようと思っても、日本人の視点しかない。群馬で学び始めて、何年か経過されている外国籍の方々に審議会等に入っていただき、その方々のニーズをしっかりと政策に反映したり、教育の現場に反映していくことこそが、実は多文化共生・共創の推進、学校教育の充実につながるのではないかと思った。
- ・最後に代田委員から、子ども達にとっては、もう多文化共生・共創は当たり前であるという話があったが、この前出会った高校1年生が、こんな話をしてくれた。「私の小中

学校は外国人の子やハーフの子がクラスの約3分の1を占めるほど多く、正直、国の壁はあまり感じませんでした。言葉が通じなくてもジェスチャーなどで理解しようと努力して、周りの子と同じように遊ぶことができました。このことから、私は日本人の捉え方次第で簡単に変えることができるのではないかと思いました。私は海外の文化が大好きで、多文化共生が難しい理由がはっきりとわかりません。それぞれが過ごしやすい社会にするために必要な技術はすでにあるのではないのかと感じています。」と。今の子ども達は、多文化共生が当たり前の環境に育っていて、私たち大人とはまるで違う。そんな彼ら、当事者の声を反映していくことが、多文化共生・共創の推進に向けて、非常に重要であると考えた。

(平田教育長)

- ・みらい共創中学校で授業をしているところを初めて拝見した。皆さんがおっしゃっていたように、生徒達は、楽しそうに授業を受けていて、非常によかったと感じている。みらい共創中学校では、様々な文化がまざり合っており、最初の信頼関係を構築していくのは、相当に大変であったと感じている。みんながここにいていいと思えるような、自分が大切にされる、他の人を大切にするという文化が生まれているように感じられたのは、本当にありがたいことだと考えている。生徒が多様であるから、むしろ学校に行きやすい部分もあるのかもしれないと改めて感じた。
- ・メタバースのつなサポは、コンテンツも含め、担当者が手づくりで作ってくれた。作っていく際にどんなものにしようかと検討した際に、やはり教育の根本に戻ったと伺っている。学校というものを根本まで突き詰めていった際に、何が一番大事かと考えると、やはり子ども一人一人が、自分で考えて決めて動き出すと、ここの本質的な部分を外さないようにしようと考えたと伺った。
- ・つなサポを利用する子ども達は、コミュニケーションはあまり得意ではないかもしれないけど、つなサポ上では、子ども同士やスタッフに対して、必ず手を挙げるなどエモートの反応をしてくれると伺っている。スタッフが頑張ってくれた仮想空間の中で、子ども達は他者とつながりたくて、参加希望が増えている。学校やフリースクール、教育支援センターに行きづらい子ども達にも、他者とのコミュニケーションに対する本質的な希望があり、メタバース上の空間がこれを叶えることができるかもしれないと感じた。
- ・この仮想空間の形であれば、県内のどの地域からも参加することができる。このようなつなサポを頑張ってくれていて、本当にありがたい。

(山本知事)

- ・まず、小島委員から、みらい共創中学校に「自ら入りたい」という印象を持たれたとのことで、私も共創中を運営されている方々から熱い情熱を感じて、全く同じ感想を持った。
- ・また、小島委員から、日本人ばかりの教室自体が国際的には異例ではないかと伺ったが、その通りだと思う。日本のダイバーシティは、世界から圧倒的に遅れているというニュースも拝見しており、日本の置かれているダイバーシティの状況は国際的には極めて異例ということかと思う。
- ・行政や教育の現場よりも、民間の方が多文化共生が進んでいるというご意見もとても参考になった。民間の持っている組織や人材といった資産をしっかりと教育現場にも活かしていきたい。民間の資産と教育現場をどう結びつけるかというのは、しっかりと県としても頭に置いて、教育委員会とご相談していきたい。どのぐらいの情報がそろっているかわからないが、確かに人材バンクのようなデータリストがあれば便利と思った。

- ・日置委員から、高い専門性を活かしたお話をいただき、大変勉強になった。多様な人たちが集まっている中で、いかに個別最適を実現していくかという考え方はすごく大事だと思う。日置委員がおっしゃった、もしみらい共創中の取組が成功すると、すべての学校に通じるモデルになるのではないかというお考えは、全くその通りだと私も感じた。
- ・インクルーシブ教育をこれから群馬県は進めていこうと考えており、みらい共創中学校を成功させて、その知見をどうやって群馬県に横展開していくかと考える視点はとても大事だと考える。
- ・また、日置委員からご説明いただいた不登校の問題、ソーシャルワーカーの人たちが一生懸命頑張っても、3分の1しか、復帰しないというお話や不登校の原因は、本人に関する問題が大変多いというお話も大変参考になった。子ども達に様々な選択肢を与えるという観点だと、メタバースはすごく適切で、もっと増やしていく必要があるというご指摘もいただいたが、どんな対応ができるかを考えさせていただきたい。
- ・日置委員から、メタバース上の学校は、体験できるコンテンツの中身が重要というご指摘もいただいた。つなサポは、本当に職員が手づくりで作っていて素晴らしいと思うのだが、手づくりの中でも更に知恵を絞っていただいて、「ここにしかない」コンテンツをつくれると、ものすごくよいと感じた。
- ・河添委員から、大変ポジティブなご意見をいただき、大変勉強になった。みらい共創中学校やつなサポの取組は、これからの流れに適合しているということで、子ども達の学びやつながりの機会になっていくのご意見をいただいた。
- ・また、保育の観点から、非認知能力を伸ばす最大のチャンスが幼児期から児童期というお話もいただいたが、その環境を作るのは大事だと思っている。群馬県は非認知能力分野の取組では、全国のトップを走っていると思っており、OECDの非認知能力に関する調査に、日本で唯一参加し、スコットランドと組んで、新しい非認知能力育成のプログラムを作ろうと考えている。今回視察した取組もこの中に反映させていければよいと考えている。
- ・学級集団を作ることや多様性を学ぶことの大切さについてのご意見も、大変勉強になった。教師やいろんなプレーヤーが、それぞれの役割を継続的に果たしていく中でともに成長するという観点はとても大事だと思う。まさに自他をともに認めあう環境が大事ということで、これもしっかりと県政の中で活かしていければと思う。
- ・代田委員から、率直で説得力のあるご意見をいただいた。視察の際に、みらい共創中学校の生徒が、笑顔で挨拶してくれたことについてご意見をいただいたが、私もみらい共創中学校で出会った2人の生徒にすぐ挨拶いただき、とても良い印象を持った。
- ・またメタバース空間で自己肯定感を感じてもらい、もっと皆が共同作業できるようになっていくとよいというご意見をいただいた。是非スタッフの皆さんにも考えていただき、参加者同士で発表できたりすると思った。
- ・本日、代田委員のお話で、改めて気づいたが、子ども達は、多文化共生・共創を実はよくわかっているのではないかと考えた。特に県東部地域では、外国籍の方が多く、クラスに外国籍の子どもが多くいるということで、逆に大人達は、子ども達から多文化共創に向けた対応など学ぶべきだというのは、全くその通りと感じた。
- ・草津温泉でも、実はネパール出身の方たちが旅館で活躍している。ネパール出身の方達は、真面目で、旅館・ホテルでも採用していったことで、家族の方も含め、ネパール出身の方が増えている。草津町の幼稚園でもネパール出身の方のお子さんが増えていると伺っている。こんな現状も踏まえ、今の子ども達から大人が学ぶという観点は、本当に大事だと思った。
- ・一部の外国籍の方の犯罪等から、外国籍県民の方にやや良くない印象を持っている県民の方もいるのだが、代田委員のおっしゃるとおり、実は必ず声をかけてくれる優しいと

ころがあると、こういうことはとっても良いと考えていて、アピールしていきたいと思う。

- ・沼田委員からいただいたみらい共創中学校の入学式挨拶で、入学生代表の方が「友達になりたい」とおっしゃった言葉に、多文化共生・共創の全てが込められているというご意見は全くその通りだと思う。
- ・いかに子どものころから、異文化の友達ができるかどうかというのが、実は、人間の多文化共生・共創への意識を変えるのではないかと考えている。
- ・メタバース空間は新しい環境で、社会参画の場として良いというご意見もいただいた。つなサポは、先生たちが試行錯誤しながら作ってくれたということで、私からも、この尽力には、本当に感謝したい。こういった先生たちの情熱が、すごく素敵だと思う。
- ・また、沼田委員から、多文化共生について、群馬県の審議会等の委員にも、例えば、当事者であるみらい共創中学校に通っている方々も入ってもらったらどうかというご意見をいただいた。日本人視点ではなく、まさにこういった立場に置かれた人たちが審議会員等に入っていくことで、真のニーズが把握できるというご意見は、是非また教育委員会と相談をして、早速、実現できないか検討していただきたいと考えている。女性の委員を増やすことを考えてきたが、これも大事な視点と思って、とても勉強になった。
- ・子ども達の方が、実は多文化共生について理解があるということで、沼田委員からあった高校生からの言葉、「実は多文化共生ってのは意外と簡単にできるんじゃないか、実は日本人にはその力があるんじゃないか」という言葉は、本当に政治家として救いだと思う。多文化共生のシンボルのようなアメリカでも、実は多文化共生は、上手くいっていない印象を受けている。欧米でも、移民反対の右派の得票が伸びていて、あまり上手くいっていない印象である。
- ・今日の話を知ると、日本人は意外と外国籍の方を自然に受けとめられる民族だとすると、ダイバーシティは圧倒的に少なくとも、こういった文化があればいいなと思って、救いのような気持ちでお話を伺っていた。
- ・平田教育長から、みらい共創中学校は、多様な背景を持つ生徒がいらっしやる中で、今の素晴らしい協働の雰囲気を作っていただくべく先生達にご尽力いただいたというお話をいただいたが、その通りだと思う。また、生徒達が、これまで自分が違うことによって苦労した人たちで、そんな多様な人たちが集まる学校だから、行きやすい学校というご意見も、非常に印象深いご意見だった。
- ・つなサポも手作りということで大変かと思うが、何か県の方で、少し支援することがあれば言っていただきたい。ご存じの通り、デジタルも日進月歩で、あらゆることが変わっていくので、先生方がいろいろと知恵を絞っていただく中で、つなサポの中身についても県でサポートできることがあれば、ぜひ考えさせていただきたい。
- ・つなサポの設計思想にある子どもたち一人一人が自分で考えて動き出すところを重視しているというのも素晴らしいと思うし、教育長がおっしゃった、みんなつながりたい気持ちがあるというのも全くその通りだと思う。
- ・子どもたちのニーズや欲求のハードルは高いと思うが、ある意味、もっと臨場感のあるゲームなどがある中で、先生たちが手づくりで作ってきた、つなサポの参加希望者が増えてきているのは、先生方の心があるからだと思う。
- ・このあたりも踏まえつつ、どうやって特徴を出せるかということをよく検証した上で、先生方の色々なご意見を伺いながら、必要であれば、しっかり予算を組んで、つなサポの改善や拡充を図っていく、こういうこともやっていければと思う。
- ・審議会委員の話やつなサポへの支援の話は、ぜひ今日皆さんのご意見を受けて、平田教育長とご相談しながら考えさせていただきたい。

- ・教育委員の皆様とは、是非、別の機会を設けて、懇談させていただきたいので、よろしくをお願いします。

( 以 上 )